

2014年5月8日
東日本旅客鉄道株式会社

インドネシアの鉄道事業者との協力覚書締結及び車両の追加譲渡について

JR 東日本は、昨年9月より、埼京線で使用してきた車両180両をインドネシアの鉄道事業者であるジャカルタ首都圏鉄道会社に譲渡するとともに、11月より技術者を派遣して現地で車両の保守に関する技術支援を実施してきました。

3月26日、インドネシア鉄道会社ならびにジャカルタ首都圏鉄道会社と、鉄道運営等において相互に協力を行っていくことを目的として、覚書を締結しました。

今後、この覚書に基づき、人事交流などを通じて、相互に協力していきます。

あわせて、今回、横浜線で使用してきた車両約170両についても、ジャカルタ首都圏鉄道会社に譲渡します。

1 概要

東日本旅客鉄道株式会社(社長:富田哲郎)とインドネシア鉄道会社(PT.Kereta Api Indonesia、以下PT.KAIと表記)(総裁:イグナシウス・ヨナン氏)ならびにジャカルタ首都圏鉄道会社(PT.KAI Commuter Jabodetabek、以下PT.KCJと表記)(社長:トリ・ハンドヨ氏)は、鉄道のオペレーション、メンテナンス、マネジメント等の分野における相互協力を目的として、3月26日、インドネシア・ジャカルタにおいて、三社による協力覚書を締結いたしました。

2 協力の内容

今後、覚書に基づき、鉄道のオペレーションやメンテナンス、マネジメント等の分野における情報交換や意見交換、人事交流を通じて相互に協力し、交流を深めてまいります。具体的な交流の内容やスケジュールについては、三社間で協議のうえ決定してまいります。車両メンテナンスに関する更なる情報交換を始めたほか、今後、地上設備についての情報交換も実施していきます。

また、横浜線で使用してきた205系車両約170両の譲渡については、5月下旬に開始する予定です。



ジャカルタで運行している譲渡車両